



原田さんに聞く!

潮干狩りに行くまで・行ってから

おすすめの場所は？

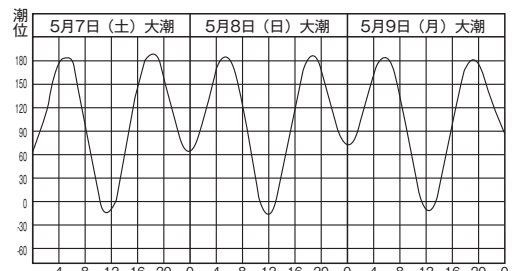
僕がよく行くのは神奈川県横浜市「海の公園」。潮干狩りが無料で楽しめ、「海の公園南口」駅、「海の公園柴口」駅から改札を出てすぐというアクセスの良さが魅力です。足洗い場、トイレ、休憩所があり、夏はシャワーも利用可能。「2cm以下の稚貝は採取不可」「持ち帰る貝は一人2kg以内」「幅15cmを超える道具は使用不可」というルールを守りましょう。潮干狩りシーズンは道路が混雑するため、電車利用がおすすめです。

【海の公園】〒236-0013 横浜市金沢区海の公園 10 番
<http://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/uminokouen/>

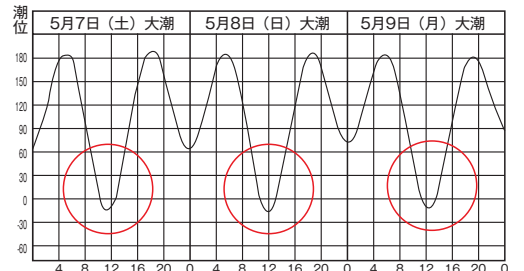


潮汐表の見方は？

潮汐表の見方は下記を参考にしてください。僕のホームページではアサリの大きさと出かけどきが一目でわかる、潮干狩りに特化した2040年までの潮汐表を掲載しています。



▲満潮と干潮は一日二回ずつ



▲○で囲ったところが引き潮になり潮干狩りに適した時間

東京湾で採れる貝の種類は？

アサリ、バカガイ、シオフキ、マテガイなどが採れます。味からいえばアサリが断トツに美味しく、人気があります。千葉の潮干狩り場では撒かれたものですが、ハマグリが採れるところもあります。



アサリを採るコツは？

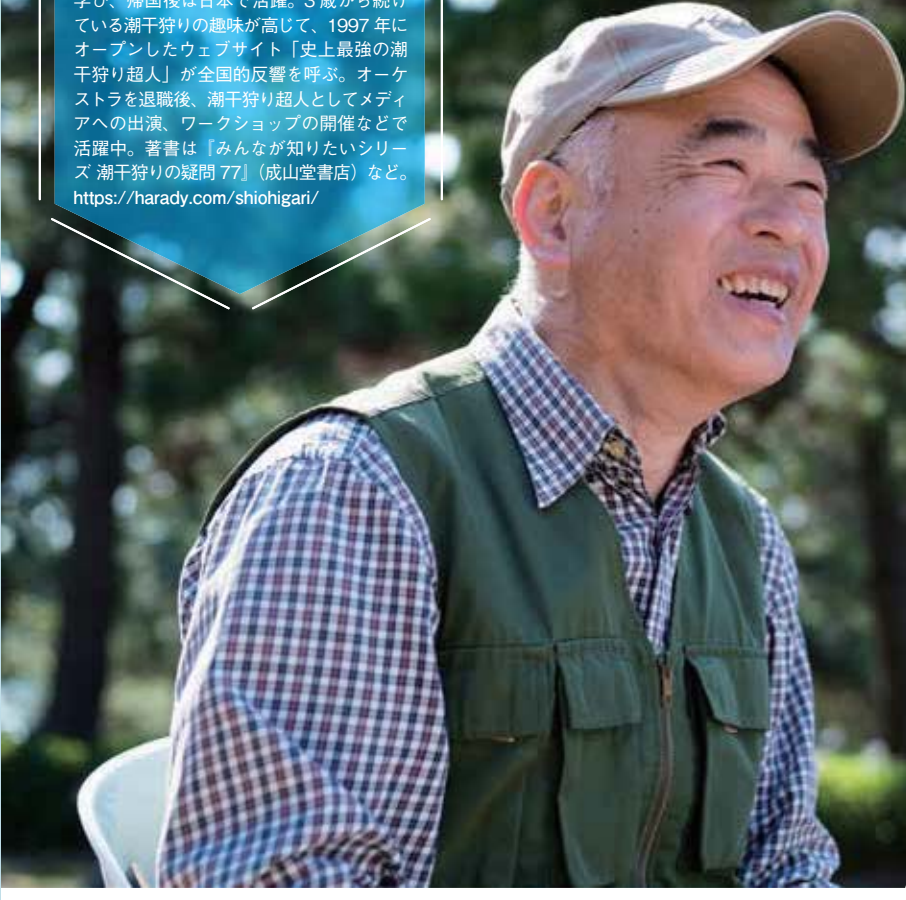
アサリは岩陰や海草の陰などを好み、必ず集団で潜んでいます。「1個見つけたら30個いると思え」というのは僕の作った格言ですが、当たりをつけて熊手で掘ってみて、もし1個いたら周辺を掘り進めてください。また、海が干上がったとき干潟の上に残った二つの穴は、アサリが水管を引っ込めた跡。これが見つかれば、必ずその下にアサリがいます。アサリの集団を見つけたら熊手を置いて、両手で掘った方が採りやすいですよ。



アサリが水管を引っ込めた穴は必ず2つがセットになっている

PROFILE

●原田知篤 (はらだともあつ)
1949年、山口生まれ。オーボエ奏者。フランス政府給費留学生としてパリの音楽院で学び、帰国後は日本で活躍。3歳から続けている潮干狩りの趣味が高じて、1997年にオープンしたウェブサイト「史上最強の潮干狩り超人」が全国的反響を呼ぶ。オーケストラを退職後、潮干狩り超人としてメディアへの出演、ワークショップの開催などで活躍中。著書は「みんなが知りたいシリーズ 潮干狩りの疑問 77」(成山堂書店)など。
<https://harady.com/shiohigari/>



初夏の風物詩 潮干狩り

大人も子どもも夢中になる

江戸時代からレジャーとして親しまれてきた潮干狩りは、春から初夏にかけてがベストシーズン。広大な砂浜から貝を掘り当てる宝探しのような楽しさ、自分で採った貝を食べる喜びを体験してみませんか？「潮干狩り超人」として様々なメディアで活躍する原田知篤さんに、潮干狩りの楽しみ方を指南していただきました。



潮干狩りにぴったりの時期、日時

潮干狩りといえば初夏のイメージがありますが、「実は一年中できる」と潮干狩り歴65年の原田さんは語ります。しかし、絶好の潮干狩りシーズンは例えば、やはり4月から6月です。「貝は冬でも採れますが、水温が低くて寒いし、貝の身が痩せているんですね。アサリが一番美味しいのは梅雨時の6月。でもゴールデンウィークに沢山の方が来て潮干狩りされアサリの量が減るので、沢山採りたいなら4、5月がおすすめです」

潮干狩りは潮が引いたときに現れる砂浜で貝を掘るため、潮干狩りに適した日時は決まっています。干潮日時を調べて、出かける日を決めましょう。「潮の満ち引きを表にした潮汐表(潮見表)は、海上保安庁や潮干狩り場のホームページ、東京湾に限れば僕のホームページにも載せています。潮位が低い日ほど普段は行けない深場まで貝を採りに出られるので、潮位が低い日の干潮時間の2時間前に現地到着するのがベストな時間です」

始めるためのハードルが低い

特別な服装と道具を購入する必要はありません。「潮干狩りは始めるためのハードルが低い遊びで、熊手がなければ手で掘ればいいし、貝を入れるのはスパーの袋だっていいんです。より楽しむためにあった方がいいものは、熊手と貝網。貝網は採ったアサリを入れて洗えるので便利です。どちらも釣具店や潮干狩り場で購入できるし、熊手は100円ショップでも売っています」

服装は強い陽射しから肌を守るため帽子と長袖、膝上まで隠れるパンツを推奨。子どもの場合は着替えを用意し、大人も転んだときのために下着の替えだけは持っていきましょう。さらに、原田さんのおすすめは、潮干狩り用の靴下を用意すること。「靴下だと海中の砂が指の隙き間などに入り込んで擦れて痛くなることのない上に、足の裏の感触でアサリを見つけることができますよ」

岩やカキ殻が混ざっている潮干狩り場ではサンダルや長靴が必要なこともあるので、履き物は状況に応じて選んでください。そして貝と海水を持ち帰るために、保冷剤を入れたクーラーボックスとペットボトルがあれば用意は万全。潮干狩り場へ出かけましょう。

一度やったらやめられない

実際に潮干狩りをやってみると、アサリ以外にも様々な種類の貝が採れるほか、蟹やイカ、魚など海の生物にも出会えます。一つひとつ異なるアサリの貝殻の模様を眺めるのも楽しみのひとつ。家族連れで潮干狩りをする、親の方が夢中になってしまうことも多いそうです。「出かけるまでは面倒に感じるかもしれませんが、一度やったらやめられない。とまらない(笑)。高い道具を買う必要もありません。ぜひ一度出かけてみてください」